

聖霊降臨の主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ 20：19-23

週の初めの日の夕方、イエスが恐れて自分の家の戸に鍵をかけている弟子達に真ん中に立った。「あなた方に平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす。」そう言ってから、息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。誰の罪でも、あなた方が赦せば、その罪は赦される。」

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号#685-686、703、976、1087、1120、1287；YOUCAT #118-119、227）

聖霊の充満は、メシアに属するすべての民に与えられるはずのものでした。聖霊の到来を約束なさったことはまず復活の日に(ヨハネ 20：22)、ついで、目立つ方法で聖霊降臨の日に実現されました。(使徒 2：11) 聖霊に満たされた使徒達は、神の偉大なわざを宣言し始め、ペトロは、聖霊が注がれたことはメシア時代のしるしであると宣言しました。信仰宣言において、聖霊を信じるとは、聖霊が聖三位のペルソナの一者であり、御父と御子と同一の本質を持っておられるかた、御父と御子とともに礼拝され、たたえられる方であることです。聖霊についての神秘は、三位一体の命と関するだけではなく、神の救いにおける営みです。聖霊は、創造において、すべての被造物の存在と命の源として息吹です。しかし、御子の受肉と救いの時に、神的ペルソナとして啓示され、与えられ、認められ、受け入れられました。今日、教会における聖徒の交わり、罪の赦し、体の復活、永遠の命は、注がれた聖霊によって、人類のうちに具現します。

復活されたキリストは、聖霊を使徒達に与え、罪を赦すご自分の神的権能を使徒達に授けられました。「だれの罪でも、あなた方が赦せば、その罪は赦される。誰の罪でも、あなた方が赦さなければ、赦されないまま残る」(ヨハネ20：22-23)。だから、復活したキリストは使徒たちに聖霊を与えながら、聖とすご自分の権能を彼らに委ねられました。同じ聖霊の力によって、使徒達はこの権能を後継者たちに委ねます。この使徒継承が教会の典礼活動全体を支える土台であり、それは、叙階の秘跡によって伝えられます。御父が人となられた御子に委ねられた救いの使命は、使徒達に、また、使徒を通してその後継者たちに委ねられています。即ち、叙階された奉仕者は、後継者としてイエスの霊を受け、イエスの名によって、イエス自身として行動し、奉仕的祭司職に与ります。特に、感謝の祭儀と和解の秘跡を行うことによって、その職務を果たします。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#136 信仰宣言における「私は聖霊を信じます」という意味：

聖霊を信じるとは、父と子から出て、父と子とともに礼拝され、栄光をうけられる、至聖なる三位一体の第三のペルソナを宣言することです。聖霊は遣わされて、私たちが神の子の新しい命を受けるために、私たちの心に送られました。

#144、265 五旬祭の聖霊降臨の日という意味：

復活の五十日後、イエスは教会に聖霊を注いで、教会は三位一体の交わりの神秘を告げ知らせ、広めるよう遣わされています。また、聖霊降臨の時に注ぎられる霊のたまものは、現在の堅信の秘跡によって、新受洗者としての教会の子たちに与え続けて来ました。

最後の祈り：「聖霊の続唱」（カテキズム要約 付録A：共通の祈りを参考する）